

2019年3月ころから全世界を巻き込んだコロナ禍は、私たちのこれまでの働き方を大きく変えました。リモートワークや隔日出勤など、各企業で様々な工夫や試みが現在も続いています。ヒューストンの日本企業も例外ではありません。

いろいろな変化の中でも目に見える大きな動きのひとつとして、商工会会員企業のJERA Americas Inc.が、今年の6月13日に、ダウタウンに新たにオフィスを開設しました。これは、今後の当地日本企業の動向になんらかの影響を与えるきっかけとなるのでしょうか？今回は皆本淳さん(Chief Financial Officer)にお話を伺いました。(編集委員 佐藤暁子)



“JERAさんはどんな会社なんですか。”



“CO2が出ない火をつくる会社です。”

一まず、御社について簡単にご紹介ください。

JERAは、中部電力と東京電力の半々の出資で設立された会社です。JERAは2015年に発足しましたが、日本における発電に必要な天然ガスの供給確保は大きなミッションです。JERA AmericasはフリーポートLNG社に今年1月に約25億米ドルの出資も行いました。またIPP(独立系発電事業所)を運営し、アメリカ国内での発電事業も行っています。JERAは、2050年までにゼロエミッション会社になることを目標に掲げて、CO2の段階的な削減に取り組んでいます。そのひとつとして、石炭やガス火力発電所の代替エネルギーとして期待されているアンモニアや水素の技術開発やサプライチェーンづくりを進めています。JERA Americasもアンモニアを運ぶ技術を開発しているドイツの会社に出資をしたり、Texas州で風力発電所の建設を進めたりしています。戦争等はエネルギーに大きな影響を与えますが、日本にとどまらず米国を含む世界が直面する地球環境やエネルギー問題に対してソリューションを提供できる会社になることを目指しています。



一皆本さんは、立ち上げからのメンバーですか？

私自身は、一昨年JERAに入社し、ヒューストンには昨年8月に参りました。それまでは銀行やファイナンスの会社に勤めてきましたので、職種としては財務関係一筋で、エネルギー業界は今回が初めてです。アメリカ生活は2回目で、1997～2004年まで銀行員としてシカゴに駐在していました。

一では、皆本さんにとっては、新しい会社での新しいオフィスということですね。ガルフストリームでは、定期的にヒューストンでの日系企業の動きを、いろいろな側面からデータで読み解く「データでみるヒューストン」という記事(2022年5月号Page 8 & Page 9)を掲載しています。その中のひとつに、企業のオフィスの場所の移り変わりがあります。過去40年ほどの日系企業のトレンドを見てみると、多くの企業がオフィスをダウタウンからアップタウンに移転しています。ところが今回、御社はダウタウンに移転されました。エネルギー関連の大手企業がダウタウンにオフィスを構えるというのは新しい動きのように思うのですが、移転した理由は何ですか。

現在のJERA Americasは100人を超える規模になりました。この人数をワンフロアに収容できるビルは、ダウタウンにより多くの選択肢がありました。また、ダウタウンは当社のビジネスパートナーと良好な関係を築くためにも良い場所だと思っています。

一なるほど。それでは、従業員の方々からの反応はいかがですか？

西側の居住者からは『遠くなった』という声も聞こえますが、全体の従業員を見渡すいろいろな場所に住んでいるので、『通いやすくなった』という人もいます。

コロナ禍で、働き方が見直され、ワークライフバランスということが重要視されるようになってきました。当社では、現時点では原則3日出社で、月曜日と金曜日は在宅勤務が可能です。ダウタウンに移転したことで、球場や劇場などもより身近に感じられるようになった人もいます。

一従業員が110人とのことですが、アメリカ人が多いのですか？

現地採用の日本人を含め従業員の80%以上がこのアメリカで採用された方々です。日系企業の良いところを残しつつ、現地化をより進めています。コロナが落ち着き、少しずつ以前のようにオフィスで仕事ができるようになり、対面で仕事をする事の重要性と意義を強く感じています。だからこそ、従業員全員がひとつのフロアで一緒に仕事をする事を重視して、今回の移転先を選びました。

現地化の推進のために、当社では日米の歴史や考え方を理解してもらうためにクロスカルチャートレーニングというのをやっています。例えば『なぜ日本人は会議での発言が少ないのか？』といった疑問に対して、双方が答えを見つけたり、対応を改善するきっかけになったりしています。

6月29日の開所式は、地元の皆さんとも積極的に触れ合う場所にしていきたいと考えています。



▲新オフィス開所式 1. Steven Winn氏、CEO 2. 鏡開き(左から(敬称略): Steve Winn, CEO/Todd Kerschbaum, Chief Technical Officer/酒入和男, 株式会社JERA 取締役 副社長執行役員/David Sladic, Regional General Counsel) 3. 雷太鼓の演奏 4. 社員とその家族によるお茶と書道

一それでは最後に、商工会との関係で、今後に期待することがあればお話しください。

当社は、商工会の中でスポーツ委員となっており、3年に一度担当が回ってきます。昨年は、バーチャルウォーキングを計画し、コロナ禍で会員の皆様をつなぐのに一役買ったのではないかと思います。今年是对面でのイベントが開催されるようになり、先日のソフトボール大会も素晴らしい盛り上がりを見せました。今後も、当地のコミュニティの活性化の役に立っていければと思います。

仕事関係の面では、セミナーや勉強会の充実です。商工会では、アメリカの先進的なビジネスモデルや技術を学ぶ勉強会や、地元企業と触れ合う機会を作る場を設けていただければ嬉しいです。

一本日は、たくさんの貴重なお話をお聞かせくださり、ありがとうございます。